

第3回 北杜市消防団活性化検討委員会会議録

1 会議名

第3回 北杜市消防団活性化検討委員会

2 開催日時

平成27年7月8日（水）

3 開催場所

市役所大会議室

4 出席者

委員：清水康男・鈴木猛康・清水謙雄・小林芳弘・櫻井八州彦・利根川 昇・坂本興一・古屋賢一・氏原宏幸・坂本榮富・篠原克巳・小針長男・小澤邦壽・渡邊 稔・高垣直威・赤岡晴人・篠原章雄・小澤 浩（代理）・加々美 誠（代理）

事務局：

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員長あいさつ
- (3) 新委員に委嘱状交付
- (4) 議事

6 公開・非公開の別

公開

7 非公開の理由（会議を非公開とした場合に限る）

8 傍聴人の数（会議を公開とした場合に限る）

なし

9 審議内容

- ・会議次第（2）委員長あいさつ
皆さんの知恵をいただいて、北杜市にマッチした消防団活性化の取りまとめを進めたい。
- ・会議次第（3）新委員に委嘱状交付
- ・会議次第（4）議事
 - ①副委員長の選任：小針消防団副団長を指名
 - ②前回の会議内容を説明

委員長：消防団に入らない原因。親が入れないという事実、子どもが親離れしていない、集団的な行動がいやだなどがあるのではないか。消防団としてはどうか。

委員：各分団の団員が消防団活動に意欲を持っていない。常備消防が充実し、火事があっても連絡がない。やりがいがないという声が多い。
消防署の職員の状況について教えてもらいたい。

北杜署：峡北消防本部の採用は例年若干名。しかし、4月1日から半年は消防学校での研修があり、配属されても年度内は動けない状態。年度末は6人が退職予定だが、今

年の採用は2人だけであり、かなり消防団に頼るところがあると思う。

委員：「地域をみんなで」という気持ちで、いろいろなことにかかわってゆく人間関係作りが必要。子どもの頃から地域がかかわって、すりこんでいくような、これからの人を育てていく必要がある。

現役の団員には充実感がほしい、周囲からの「がんばっているね」という声がほしい。

委員：私が消防に入ったころ、このあたりはいなか若い人が地域のために役立った。今とは社会的意識も違うし、同級生も少ないなどいろいろな要因がある。意識を変えていくのは難しい

委員：「消防に入れなければ一人前ではない」という意識があり、消防に入れた時はうれしかった。そんな位置づけは今どうなのだろうか。若い人には伝わらないし「消防で生活できるのか」といわれると言葉がない。

常備消防を充実して補佐的性格を強め、少ない人数で対応できる体制も必要ではないか。

委員：定数確保のため、やめられないというのも現状。

委員：54歳・55歳の団員が4人いる。

委員：消防団を好きになる要素というのは何か。「火事を消した」というよろこびや「地域に貢献したい」という気持ちか。

委員：「消防団＝酒を飲ませられる」という意識が母親にあると聞く。

委員：サラリーマンの団員が80%では、いざというときの役にたたない。だんだん、常備消防に頼っていくようになる。今の定数の根拠はどこにあるのか。

事務局：合併後に一度見直しをしたときのもの。北杜市の場合、山を抱えているのでその点も考慮しているものと思う。

委員：「こうすればいい」という方法が浮かばないというよりも、ない。消防団に絞って考えている気持ちはわかるが、子どもたちへの教育や、人がいない中でどうやるかといった、地域をどうするかを考える中で消防団をどうするかを考えて行かなくてはならないのではないか。結論を出していこうとするとたいへんなことになる。

人が多いときとおなじことはできない。おぎなうのはOBや女性を含んだ地域ではないか。

委員：

委員：消防団は保育園ではヒーロー的存在なのだが、成人していく間にイメージが変わってしまう。有事の際には感謝して「ごくろうさま」という。北杜市消防団としてはエリアで分担しているが、人口が減っている中では、エリアを見直したりお互いに協力しあう体制作りが必要。

委員長：一度意見をまとめると、消防団に入らないということについては

- ・子どもの頃から消防団のよさと防災の大切さを教育
- ・社会的に意見が今までとは異なってきている
- ・常備消防のさらなる強化を
- ・地域に貢献したいという団員も多数いる

- ・「こうすればいい」という名案はでない
- ・男性だけではなく女性の活用も必要
ということではないかと思う。

「消防団に入りたい」という意識をもってもらうためにはどうしたらいいかというテーマで意見をいただきたい。

団員へのメリット、長野県でやっているような商店での優待や、特殊車両などの活動に必要な資格取得の補助というような体制作り。地域の人たちに親しまれ喜ばれるような環境作り、勤務先からの理解。職員が積極的に団員になってもらわないことには、前に行かないのではないか。

家族にも理解が得られるような応援も必要。ボランティアではあるがある程度の見返りも必要と思う。補償についての宣伝も同様。

委員：消火は常備消防がほとんどやっているけれども、大雨警報が出たときなどには出動しないのか。

委員：出動の判断は、総合支所に関係者が集まり検討。出動になれば指令を出し、各部のエリアを警戒する。

委員：その時に市との関係は。

委員：各総合支所からの指令で集まって集合している。

委員：その中で「ここは重要ポイントだから見てくれ」というような指示はあるのか。

委員：それはない。

委員：「入りたい消防」という話だが、富士見町では35歳から37歳くらいで退団。でも、員があまりない。活性化されて消防大好きな人間がとても多い。「山梨県の消防はなぜあんなに長い法被を着ているのか。長くては活動できない」といわれる。迫力が違う。

委員：甲信は続いているのか。

事務局：協定は北杜市に読み替えて継続している。

委員：2年ほど前に一度会議をした。

委員：長野県のレベルの高い操法を見て、子どもたちがあこがれる。「大きくなったら消防に入る」という心構えになる。

委員：消防団は地域に根ざして地域を守っている、それは他の組織にまねができないこと。市役所の職員に入ってもらい、増やさなくてはならない。特に女性団員の登用して活性化に役立ててもらえればいいというのが1点。市内の会社に対しては、法律が制定されているので市長名でお願いし、協力すればメリットが返って来るような仕組みを市は作る必要がある。市内の民間会社と連携を深めていけば、団員は増えるのではないか。そういった努力を提言してもらえればと思う。

魅力はやはり必要、地域のために消防をしようとがんばった人にごんばった成果がみえなければいけない。

もう一点は地区の自主防災組織との連携。自分たちがどれだけ地域の中で大切にされているかを感じられるように。北杜市にぴったりの「これだ」というものがほしい。

委員：富士見の消防のようすを調べる必要がある。37～38歳でやめてしまうといっても、

その元がどこにあるのか知りたい。

委員：北杜市は昼間人口のほうが多いと聞いている。北杜市内の若い人が多い企業で、職場が市内で災害の際には時間がかかってもこられる人は地域の団にという働きかけも必要。

警察署：今問題になっているのは、消防団のような地域を守るという気持ちを次の世代にどう伝えるか。疲れて帰ってきて眠るだけで地域との関わりがないのが現状。「これをすればこれがある」という見返りは必要。

委員長：自衛隊には報奨制度がある。小さなことでも認め、ほめてのばす仕組みがある。消防団にもきめ細かい報奨があってよい。

山梨県：活性化をなんのためにするかというと、消防団をいかに維持するかと思う。まず、地域を守るためにどれだけの人が必要かという数の問題。もうひとつはどうすれば活性化するかということ、これは数の問題だけではなく、団員の満足を考えなければならない、そうすれば、まわりから認められるか本人の達成感がうまれる。制度的には北杜市に勤務している人でも入団は可能。北杜市の強みを生かしていく、商工会などとタイアップした表示制度やサポート制度をいのもひとつの方法。

委員長：団員へのアンケートをとり、意見を集約したいが。

委員：昼間の団員をなんとかするには、女性消防隊を作ったほうがいいと思う。合併前にはあったのだが、合併の時に解散してしまった。各分団3人くらいで構成して、本部付けでやればいいのか。

委員長：消防団の中でということならば補償の面もクリアできる。男性団員減の補充と活性化のためにぜひメインにして進めてほしい。

委員：市役所の職員に入ってもらって、「入ってみたい」と思われるようにしてほしい。

委員長：市のほうから範を垂れると、一般の人もくるのではないか。それがいい形。

委員：ラップ隊も不足している。女性のラップ隊員が誕生してもいい。災害が発生して避難所が開設されるような場合には男性団員では難しい場合もありうる。女性でなければできない分野はある。

委員：防災の啓発をやってもらうには女性の方が効果が大きい。最初はメディアへの露出を多くして、「北杜市はがんばっている」という印象をもってもらうのが最初。

事務局：条例にも女性ではなれないという規定はない。

委員長：県内の女性消防団員はどんな状況。

山梨県：70～80人くらいで増える傾向。女性消防団員の考え方は二つある。まったく男性団員と同じ活動をする人と、ほかの女性がいないとやりたくないという二つ。後者に対しては、機能別団員の考え方を取り入れて活動の環境を整える。人数を増やすために「とにかく入って」で対外的な活動だけやってもらえばいいということで機能別をするのではなく、きちんとした目的をもった機能別制度をすることは、団員として認めてもらえることだと思う。

委員長：「消防団に入らない」、「入りたい消防団とは」という両論があるが表裏一体。人が減り高齢化が進む中でも消防団活動をなくしてはならない。女性団員制度を望

む声が多かった、これについては前向きに考えたい。

事務局：H29の女性消防団の操法大会に北杜市消防団が出動予定。女性消防隊を結成する。これを皮切りに発展できればよい。

委員長：大会を契機に設置した例はあったが、続かなかった。一過性のものではなく、団員として活動できるように進めてほしい。

次回は今日の結果をふまえて集約したい。また、富士見の消防団活動を勉強して報告したい。マッチングできるものは取り入れて活性化をはかりたい。

事務局：団員の勤務先への文書を用意する予定。今年の出初めでは子ども用の衣装を用意して撮影会を実施。消防活動の広報・CATVでの露出を増やしている。

防災無線の補完として防災ラジオの導入を考えているが、ご意見をいただきたい。

委員長：値段はどのくらいか。

事務局：10,000～20,000円弱

委員長：メリットは大きいと思うがポケットマネーでは大変かもしれない。補助の制度があると助かる。前向きに検討してほしい。

委員：いろいろな手段があるので、各種の方法を広く活用して情報を流してほしい。

委員：同じくらいの金額で個別受信機を整備するという方法もあるのではないか。

委員：そういう話がでるのはお年寄りから、それにこたえられていないのが現状。よく煮詰めて発表してもらいたい。

委員長：前向きに検討してほしい。できれば、資料をいただきたい。